

ときどのじへんじ
土木殿御返事

上のせめさせ給にこそ法華経を信たる色もあらわれ候へ。月はかけてみち、しを(潮)

はひ(干)てみつ事疑なし。此も罰あり必徳あるべし。なにしにかなげかん。

此十二日酉時御勘気。とりときこかんき武蔵守殿御あづかりにて、十三日丑時うしときにかまくらをいで、佐

土の国へながされ候が、たうじはほんま(本間)のえちと申ところに、えちの六郎左衛

門尉もんじょうどのだいかんうめのたろう殿代官右馬太郎と申者あづかりて候が、いま四五日はあるべげに候。

御おんなげき歎はさる事に候へども、これには一定じやうていと本よりご(期)して候へばなげかず候。い

ままで頸くびの切ぬこそ本意ほんいなく候へ。法華経の御ゆへに過去に頸をうしなひたらば、かゝ

る少身のみ(身)にて候べきか。

又数さくさくけんひんすい数見擯出ととかれて、度々とが失にあたりて重罪をけしてこそ仏にもなり候はんずれば、

我と苦行をいたす事は心ゆくなり。

九月十五日

土木殿御返事

御返事

日蓮
「花押」

日蓮